

## 令和7年度 第2回地域学校協働本部運営委員会 議事録

開催日時：令和8年2月13日(金) 10時～11時30分

開催場所：我孫子市教育委員会 大会議室

出席者：佐藤委員、小谷委員、戸塚委員、森政委員、小池委員、武者小路委員、高橋委員、鈴木委員、事務局4名

傍聴者：2名

### 1 指導課長挨拶

市内全小中学校でコミュニティ・スクールがスタートして4年が終わろうとしています。地域や学校の実態によって、どうしても進捗状況に若干の差が出てしまっていますが、すべての学校で着実に1歩ずつ歩みを進めてきています。

地域の教育団体をはじめとした教育資源や施設を巻き込み、地域と双方向で協働しながら、子ども達への教育活動支援として緩やかなネットワーク作りが当たり前になってきている学校も増えてきました。

これらの様子は「広報あびこ1月号」にも掲載されています。この後担当より今年度の成果と課題として振り返るとともに来年度に向けての方向性などもお知らせしていきたいと思います。

### 2 令和7年度活動報告について

推進員の人数はコミュニティ・スクールがスタートしてから着実に増加しています。学校に複数名いると活動が一段と活発化しています。学校の教育活動に参画、参観する推進員も増えています。

ボランティア活動実績・内容からは放課後の子ども達の学習支援を実施する学校が増えています。部活動支援は地域移行の流れがあることもあり数が減っています。ボランティアの活動人数が頭打ちなのは、登下校の見守りや環境整備をさせていただいている高齢の方が引退されるケースが増えてきたこと、教職員を目指す学生の減少により大学生のボランティアが減ってしまったことが原因となっています。

昨年度からの継続と今年度の特色ある取組として、地域の社会教育団体等とのネットワークが継続されて、子ども達の豊かな学びや体験活動に繋がっています。学習会、キャリア教育、生活科や総合的な学習時間の充実など地域の子供達を地域で育てるという意識を深めるとともに、学校教育目標（育てたい生徒像）を地域と共有してる例もあります。地域行事の実行委員会議に子ども達も参加し熟議することで子ども達の主体性が高まりました。また中学校で実践した地域貢献学習は地域で高い評価を得て子ども達の自己肯定感アップ、主権者教育に繋がりました。そしてこれらのことが次の学年に引き継がれることでカリキュラムとして定着しています。

地域とのつながりを深めるために指導課として、市民協働推進課と連携をとり、自治会便利帳への掲載、地域会議に参加してコミュニティ・スクールの周知と地域と学校をコーディネートするために協力依頼をし実践しました。また生涯学習課とも連携をとり、長寿大学でのコミュニティ・スクールの説明と協力依頼、東葛地区社会教育振興大会で我孫子市のコミュニティ・スクールの宣伝をしました。そのほか学校運営協議会や地域学校協働活動、地域連携の様子を参観し「スクラム」などで広報しました。

### 3 令和8年度 活動方針と重点(案)

地域や関係機関とのネットワーク化をさらにを進めるとともに活動が停滞している中学校区を支援します。学校運営協議会の構成員の見直し、推進員の複数配置の推奨をしていきます。コミュニティ・スクールについて、自校の到達度、学校運営協議会委員の意識調査をしていきます。市内の先行事例から学べるような機会を設けます。地域会議等で学校と地域の対話を促進します。新任の学校運営協議会委員研修会を実施します。管理職以外の教職員にこの事業を周知します。中学校区独自の小中一貫カリキュラムの実践と見直しをしていきます。学校運営協議会でカリキュラムや教育課程、学校課題についてより深く熟議できるよう支援をしていきたいと考えます。

さらにこれからの学校の姿としてコモンズ（コミュニティに属する者の共有の場所）となることを目指しスクールパートナーズを増やし、育てていくことを目指しています。

### 3 協議

- 司 会 ただいま説明した「令和7年度活動報告」、および「令和8年度活動方針(案)と重点」についてご感想も含めご意見をいただければと思います。
- 佐藤委員 地域学校協働活動推進員活動実績を見ますと学校間で差があるように見受けられます。ボランティアの実績数も増減がありますが、なにか理由があるのですか？
- 事務局 複数名推進員がいる学校はその分実績数は増えます。またどうしても推進員が決まらなくて、忙しい方をお願いすることもあります。ボランティア人数の減少については、高齢化による引退、教職を志す若者が減ったことにより学生ボランティアが減ったことなどがあげられます。
- 司 会 ボランティアの数だけでなく地域とともに活動していくことで内容が充実してきている。そちらも注視していただきたいです。
- 森政委員 コミュニティ・スクールだより「スクラム」をみて参考にしています。三小や根戸小などの活動を参考にしたいのですが具体的にはどんな活動内容ですか？
- 事務局 三小の推進員は4人いて楽しく活動されています。3人でトータル年間270～280日学校に来ています。他の学校では教頭がやっている仕事も三小では推進

員ができることは引き受けています。また PTA ともうまく連携しているのも三小の特色です。

武者小路委員 学生ボランティアが減少しているという話がありました。社協では中央学院高校の生徒に来てもらってボランティアをお願いしています。先ほど話が合った協定について詳しく教えてください。

事務局 市内の 2 つの大学と、聖徳大学と連携しています。中央学院大学は今年度は実績がなく、川村学園も幼児教育科の募集がなくなったためボランティアは減少傾向にあります。我孫子高校は教職員養成コースがありその生徒が積極的に参加してくれています。毎年 4 月に各小中学校からボランティアの要望を出してもらっており、そちらを参考にして対応しています。

武者小路委員 並木小のホッパ体験に中央学院高校から 27 人参加してもらっています。

高橋委員 あびっこクラブを担当しています。最近あびっこにも新しい活動をしたいボランティアの問い合わせが来ているので対応しているところです。

小池委員 コミュニティ・スクールの活動は評価しています。こういった事業はたくさんの人的パワーが必要です。自治会やまち協の活動もだんだん活動する人が少なくなっています。今後この事業の必要性や意義を整理して特色を出していかないと人的パワーの取り合いになり事業の継続が難しくなってしまいます。ぜひ子ども達のために持続的な仕組み作りを考えていただきたいと思えます。

事務局 事業を持続させるのは大きな課題だと考えます。若い世代や大学生を組み入れていく、保護者や PTA と融合させていくなど今後 どうやっていくかしっかり考えていきたいです。

小谷委員 台中で推進委員をしていますが、西小にも繋がりがありません。西小の仲間から小学生に掛け算ができるようにしてほしいと頼まれました。東小は 10 月から学習会をしているそうで、西小でも同じようなことが出来ないかと思い、学校に提案してみましたが、子ども達が集まるかなといった心配もありました。試験的に 2 月に「宿題お助け塾」を開設し校長先生にも協力してもらいました。子ども達のなかで校長先生に教えてもらえると話題になり、参加人数が増えていっています。保護者にも参加してもらいたいと思えますがなかなか保護者の参加は少ない現状です。PTA の活動自体も少なくなっていて、他学年の保護者と繋がることで解決できることもあるのに残念に思っています。

事務局 布佐中の学習会では最初 3 校合わせて子ども 2 人大人 10 人といった体制で始まりました。そこからだんだん参加者が増えていきました。他の学校の事例などを参考にするといいと思えます。

- 戸塚委員 スクラムは参考になります。自分の学区で同じことをするのはなかなか難しいのですが、管理職として、地域と一緒に子ども達を育てる仕組みを作りそのことを教職員に周知していきたいと思います。
- 佐藤委員 活動が突出している学校がありますがそこはスペシャリストの推進員がいると聞いています。
- 事務局 スペシャリストというよりこの学校の推進員は楽しんで活動をしていると聞いています。
- 佐藤委員 PTA 活動が衰退していることが悩みです。次の役員の担い手がない。任意で募集しフォームで回答してもらっています。回答さえも集まらないです。PTA の活動の中で子ども達はいろいろなことをしているのにそのことが伝わらないのが残念です。
- 事務局 PTA も地域も人集めが大変になってきています。身近な人にやってもらっていることを子ども達が大きくなってから恩返しをするようなサイクルができることを期待しています。
- 司 会 ここまで貴重なご意見ありがとうございました。以上で協議については終了とさせていただきます。事務局に司会を戻します。
- 事務局 来年度の第1回目の運営委員会は、4月24日(金)10:00~で調整しております。3月初めを目途にご案内させていただく予定ですが、充て職等で委員の交代がある場合はお知らせください。引き続きよろしく申し上げます。  
以上を持ちまして令和7年度第2回我孫子市地域学校協働本部運営委員会を終わります。